



CA ARCserve Backup r12.5 新機能に関するご質問

Q1. CA ARCserve Backup r12.5 の新機能について教えてください。

A CA ARCserve Backup r12.5 は、運用管理の効率化、セキュリティの強化、惨事復旧(DR)/事業継続性(BC)の確保をさらに推進するために、以下の新機能を提供しています。

- データ デデュプリケーション機能
- 仮想環境の拡張サポート
- ストレージリソースマネジメント(SRM)レポート付きダッシュボード
- アクセスコントロールと監査
- セキュリティ機能の強化
- Oracle Recovery Manager(RMAN)および 64 ビットプラットフォームのサポート
- メディア検証機能
- エージェント導入パッケージ

Q2. CA ARCserve Backup r12.5 の新機能である、データ デデュプリケーションを使う場合は別途有償でオプションをライセンスする必要がありますか？

A いいえ。データ デデュプリケーションは、CA ARCserve Backup r12.5 の標準機能として提供されますので、別途オプション等を購入いただく必要はありません。

Q3. VMware や Hyper-V の仮想環境に CA ARCserve Backup r12.5 で新しく提供された Agent for Virtual Machines を使用する場合、仮想サーバ上のバックアップジョブの再設定が必要でしょうか？

A 仮想サーバで ARCserve Backup を r12.5 以前のバージョンからお使いの場合は、r12.5 に合わせた設定に変更する必要があります。r12.5 では、仮想マシンのデータの保護に対して、個別のファイルおよびディレクトリとしてバックアップする「ファイルモード」と、フルイメージでバックアップする「raw モード」、さらにこれらを組み合わせた「混在モード」のバックアップ/リストアを提供しています。

システム要件およびサポートされるプラットフォームの詳細については、

<http://www.casupport.jp/resources/bab125win/sysreq.htm> を参照して下さい。

また、エージェントのインストールおよび設定の詳細については、「Agent for Virtual Machines ユーザ ガイド」を参照してください。

Q4. CA ARCserve Backup r12.5 の新機能である、アクセスコントロールを使用する場合、新しくユーザアカウントを作成する必要がありますか？

A いいえ。CA ARCserve Backup r12.5 では、既存のユーザアカウントでアクセスコントロール機能を実行できます。

Q5. Windows アカウントを ARCserve Backup のユーザアカウントとして使用することができますか？

A はい。Windows のローカル アカウントおよびドメイン アカウントのどちらも使用できます。

Q6. アクセスコントロール機能を使ってユーザに、違う役割を設定することはできますか？

A はい。例えば、ある Windows ユーザアカウントを“User1”の役割に設定して、ほかのユーザに“Backup Operator”の役割を設定することが可能です。また、1 人のユーザに複数の役割を設定することもできます。

Q7. CA ARCserve Backup r12.5 の新機能であるパスワード管理機能はどのようなものでしょうか？

A CA ARCserve Backup r12.5 では、暗号化されたバックアップデータのリカバリを実施する暗号鍵に対するパスワード管理機能を提供しています。リストア時にパスワードの入力を省略できますので運用を効率化できます。また、定期的にパスワード変更が通知されますので、安全性と信頼性の向上が可能です。この新機能を使用する場合、Enterprise Module オプションが必要です。



アップグレードに関するご質問

Q8. 既存の ARCserve Backup 環境をアップグレードする時に上書きインストールすることはできますか？

A はい、上書きインストールすることができます。

方法は非常に簡単です：

- アップグレードを実施したいサーバに ARCserve Backup の DVD を挿入します。
- 以前のバージョンからのアップグレードかどうかウィザードが聞いてきます。
- 指示に従って、“はい”を選択します。
- データベース、ログ、ジョブ、アラート、その他関連情報がすべてアップグレードされます。
- 上書きインストール終了後にレポートの必要はありません。

また、CA ARCserve Backup r12.5 へのアップグレード対象バージョンは、r11.5、r12 となります。

その他よくあるご質問

Q9. 大量なデータのバックアップ管理を行うため、複数の CA ARCserve Backup をインストールしていません。すべてを 1 台のコンソールから操作できますか？

A できます。Central Management Option は、3 層アーキテクチャをサポートするように設計されています。管理者は Central Management Option を導入しているプライマリサーバから一元管理コンソールを使用して、同じオフィスのサーバだけでなく、リモートオフィスのサーバも管理が可能です。従って、1 箇所からバックアップ/リストアジョブ、デバイス、アクティビティログ、アラート、カタログ、製品ライセンス、レポートを管理できます。

Q10. CA ARCserve Backup は、ウイルスからバックアップ/リストアデータを保護しますか？

A はい。CA ARCserve Backup には、多数の受賞歴のある CA の CA Antivirus のウイルススキャンエンジンが搭載されています。バックアップデータは、ストレージ媒体への転送前にウイルスの有無をスキャン可能で、ウイルス感染ファイルはストレージに格納される前に駆除することができます。ウイルススキャンエンジンは、自動的にウイルスシグネチャを更新し、最新のウイルスからバックアップ/リストアデータを保護します。

Q11. CA ARCserve Backup に同梱されているデータベースは何ですか？

A Microsoft SQL Server Express が CA ARCserve Backup に同梱されており、ASDB として利用することができます。

Q12. CA ARCserve Backup は、どのようなバックアップ デバイスをサポートしますか？

A WORM メディアを含むほぼすべてのテープや CD-R/W、DVD-R/W デバイス、広範な NAS、ディスク RAID および SAN デバイスなど、非常に幅広いストレージデバイスをサポートしています。NDMP NAS デバイスは、CA ARCserve Backup NDMP NAS Option でサポートされています。詳細は弊社 Web サイトの認定デバイスリストをご確認ください。

<http://www.casupport.jp/resources/storagesupp/bab/device.htm>

また、CA ARCserve Backup はほぼすべてのストレージデバイスを自動検出する「プラグ&プレイ」機能を備えています。

Q13. **New!** Client Agent for Windows は、Windows 7、Windows XP、Windows Vista などのクライアント OS で使用する場合、ライセンスが必要でしょうか？

A いいえ。Windows 7、Windows XP、Windows Vista などのクライアント OS には Client Agent for Windows のライセンスは不要です。

これらのシステム要件およびサポートされるプラットフォームの詳細については、

<http://www.casupport.jp/resources/bab125win/sysreq.htm> を参照して下さい。



Agent for Virtual Machines に関する一般的なご質問

※仮想マシンに関連する用語については、ライセンスガイド 3-1.の「略称の使用について」をご覧ください。

Q1. 仮想環境で Agent for Virtual Machines を導入する場合、ライセンスの数はどのように数えればよいのでしょうか？

A 仮想環境で導入する際の Agent for Virtual Machines ライセンス対象は、VCB プロキシサーバ、Hyper-V サーバ、およびバックアップ対象の仮想マシンです。ライセンス対象を合計した数が必要なライセンス数となります。例えば、VMware 環境で、VCB プロキシサーバが 1 台、VMware ESX サーバ上に 3 つの仮想マシンが稼働している場合は、Agent for Virtual Machines 4 ライセンスが必要になります。

Q2. Agent for Virtual Machines は、仮想環境ごとに違うエージェント製品が用意されているのですか？

A いいえ、1つだけです。ARCserve Backup が対応している仮想環境(詳細は動作要件 <http://www.casupport.jp/resources/bab125win/sysreq.htm> で確認ください)すべてで、この Agent for Virtual Machines をお使いいただくことができます。

Q3. Agent for Virtual Machines のライセンス構成、およびインストール先を決定する上で参考になる要素はありますか？

Agent for Virtual Machines のライセンス構成、インストール先を決定するには、どのような「バックアップ モード」でバックアップを行うかを考慮いただきます。ARCserve Backup r12.5 では、3 つのバックアップモードを提供しています。

- ファイルモード:
仮想マシンのデータを個別のファイルおよびディレクトリとしてバックアップします。ファイル モードバックアップでは、ファイル レベルで仮想マシンのバックアップ データをリストアできます。
- raw モード:
仮想マシンのデータのフル イメージをバックアップします。rawモードを使用すると、データ全体をリストアできます。
- 混在モード:
データのフル バックアップをrawモードで実行し、増分および差分バックアップをファイル モードで実行します。混在モード バックアップでは、スケジュールされたバックアップおよび GFS ローテーション バックアップを実行できます。混在モードがデフォルトのバックアップモードです。

また、「ファイルレベル リストアを許可する」をチェックすることで、raw モード、または混在モードでバックアップしたデータをファイルレベルでリストアできます。

Q4. Agent for Virtual Machines のライセンス構成、インストール先決定の上で、バックアップモードが重要とのことですが、具体的にはどのように考えればよいのでしょうか？

A 「バックアップ モード」のうち、ファイルモード(混在モードを含みます)とraw モードで、Agent for Virtual Machines のインストール先が以下の通り変わります。

仮想環境	実行するバックアップ モード	Agent for Virtual Machines のインストール先
VMware 環境 (VCB プロキシサーバ使用)	ファイルモード	VCB プロキシサーバとバックアップ対象の各仮想マシン
	raw モード	VCB プロキシサーバのみ
Hyper-V 環境	ファイルモード	Hyper-V サーバとバックアップ対象の各仮想マシン
	raw モード	Hyper-V サーバのみ



Q5. 仮想環境で、Agent for Virtual Machines を使って物理環境同様にバックアップを実行することはできるのでしょうか？

A はい、可能です。仮想環境で物理環境同様に Windows 仮想マシンのバックアップを行う場合は、バックアップ対象の各仮想マシンに Agent for Virtual Machines をインストールします。仮想マシンが Linux の場合は、Agent for Virtual Machines に同梱されている Client Agent for Linux をバックアップ対象の各 Linux 仮想マシンにインストールします。

Q6. **Updated!** ARCserve Backup r12.5で仮想環境のバックアップを実行する場合、専用のエージェントであるAgent for Virtual Machinesか、Client Agent のどちらが適切でしょうか？

A 仮想環境でご使用いただく場合は、仮想マシン全体のイメージ バックアップや専用の復旧メニューを利用できる Agent for Virtual Machines をご購入ください。以前からご使用で、r12.5にバージョンアップされたClient Agentも継続使用できますが、Agent for Virtual Machinesをご使用いただくことをお勧めします。

Q7. フルバックアップからファイルレベルのリストアを実行する場合、対象となる各仮想マシンには Agent for Virtual Machinesに加えて、別途 Client Agent が必要でしょうか？

A いいえ。Agent for Virtual Machines には、Client Agent が含まれていますので、別途ライセンスの必要はありません。

Q8. Agent for Virtual Machines ライセンスはどこに登録すればよいのでしょうか？

A Agent for Virtual Machines ライセンスは、バックアップサーバ(スタンドアロン環境では、スタンドアロンサーバに、ドメイン環境ではプライマリサーバ)上で管理されます。Agent for Open Files を利用する場合、この Agent for Open Files 機能をインストールしたマシンに登録することだけが唯一の例外です。

Q9. **Updated!** 仮想マシンが Windows 7、Windows XP や Windows Vista のようなクライアント OS で、Client Agent を使用して物理マシンと同様にバックアップを実行する場合、Client Agent をライセンスする必要がありますか？ 同様に仮想マシンがクライアント OS で、VCB 機能を利用してバックアップを行う場合は、Agent for Virtual Machines をライセンスする必要がありますか？

A 仮想マシンがクライアント OS で物理マシン同様にバックアップを行う場合は、従来と同様にベース製品に含まれる Client Agent を利用することができますので、別途ライセンスの必要はありません。しかし、クライアント OS であっても、仮想マシンを raw モードで保護する等、Agent for Virtual Machines の機能を利用する場合にはライセンスが必要です。このように Agent for Virtual Machines を使って仮想マシンを raw モード バックアップすることで、クライアント OS でも簡単に惨事復旧することができます。

Hyper-V 環境に関するご質問

Q10. Hyper-V の仮想環境で、仮想マシンをバックアップするためには Hyper-V サーバに対しても Agent for Virtual Machines のライセンスが必要ですが、このライセンスで、Hyper-V サーバのフルバックアップが可能でしょうか？

A はい、Agent for Virtual Machines に含まれる Client Agent または、Agent for Open File for Virtual Machines を使用してフルバックアップが可能です。別途 Client Agent や Agent for Open Files のライセンスを購入する必要はありません。



VMware 環境に関するご質問

Q11. VMware 環境で仮想マシンに Microsoft Exchange が稼働しており、ドキュメントレベルのバックアップと VCB プロキシサーバを経由して仮想マシンを raw モードでバックアップを行う場合、どのライセンスが必要でしょうか？

A Agent for Microsoft Exchange Server ライセンス 1 つと、VCB プロキシサーバと対象の仮想マシンに 2 つの Agent for Virtual Machines をライセンスする必要があります。しかし、Agent for Virtual Machines は VCB プロキシサーバにのみインストールします。

Q12. VMware 環境で、VMware ESX サーバに対して Agent for Virtual Machine のライセンスは必要でしょうか？

A いいえ。VMware ESX サーバには、Agent for Virtual Machines をライセンスする必要はありません。VCB プロキシサーバとバックアップ対象の各仮想マシンに Agent for Virtual Machine をライセンスします。しかし、ホストマシンである VMware ESX サーバも保護する場合には、Client Agent for Linux ライセンスが必要です。

Q13. VMware 環境で、バックアップサーバが VCB プロキシサーバを兼ねている場合、VCB プロキシサーバに Agent for Virtual Machines が必要でしょうか？

A はい、この場合、ARCserve Backup ベース製品のライセンスに加えて、Agent for Virtual Machines のライセンスが必要です。

Q14. Agent for Virtual Machines は、VMware vSphere 4 に対応していますか？その場合、必要となるエージェントはこれまで同様に Agent for Virtual Machines でよいのでしょうか？

A 対応しています。(※パッチ RO07336 の適用が必要です。「ダウンロード一覧」
<http://www.casupport.jp/resources/bab125win/download/> で確認ください。) 必要なエージェントは Agent for Virtual Machines です。VCB に変えて、VDDK をお使いの場合は、VDDK がインストールされているサーバに Agent for Virtual Machines をライセンスいただきます。加えてこれまで同様に VMware 環境でバックアップ対象となる仮想マシンの数分ライセンスが必要です。

Q15. VMware vSphere 4 で、VCB プロキシサーバと VDDK が混在している場合、Agent for Virtual Machines のライセンスはいくつ必要でしょうか？

A VCB プロキシサーバと VDDK がインストールされたサーバが同一の場合、必要な Agent for Virtual Machines のライセンスは1つです。VCB と VDDK がインストールされたサーバが別の場合は、それぞれの数分、Agent for Virtual Machines ライセンスが必要です。加えてこれまで同様に VMware 環境でバックアップ対象となる仮想マシンの数分ライセンスが必要です。

Q16. VCB プロキシ サーバ(もしくはVDDKがインストールされたサーバ)に導入したAgent for Virtual Machinesライセンスに付属するAgent for Open File for Virtual Machinesを利用して、当該サーバ上のシステムや一般データのオープンファイルをバックアップできますか？

A 可能です。VCB プロキシ サーバ (もしくはVDDKがインストールされたサーバ)でも、VCB プロキシ サーバ (もしくはVDDKがインストールされたサーバ)とバックアップサーバを同一サーバとする構成でも、Agent for Open File for Virtual Machinesを利用できます。



移行に関するご質問

Q17. ARCserve Backup r12.5 で、Agent for Virtual Machines をライセンスして VMware 環境を保護していますが、Microsoft Hyper-V 環境に移行する計画をしています。この場合、新たにライセンスし直す必要がありますか？

A いいえ。Agent for Virtual Machines は、VMware 環境でも Hyper-V 環境でも使用することができますので、新たにライセンスし直す必要はありません。ただし、移行後の環境でバックアップ対象が増える場合は、追加で Agent for Virtual Machines のライセンスが必要です。

Q18. 物理サーバに r12.5 の Client Agent と Agent for Open Files をインストールしていて、仮想環境への移行を計画しています。Agent for Virtual Machines を新たにライセンスする必要はありますか？

A はい。新たに Agent for Virtual Machines をライセンスする必要がありますが、アップグレード価格をご利用いただくことができます。